

# 令和3年度校内現職教育計画

## 1 学校教育目標

【 人間性豊かで、主体的に生きるたくましい児童を育てる 】

## 2 本年度の重点目標

郷土への愛情をもち、ともに未来を切り拓く力を育てる

- (1) GIGA スクールの実現で、未来を切り拓くための学力、心、体を育成する。
- (2) 家庭・地域と協働し、質の高い教育活動を展開する。
- (3) 働き方改革を推進し、教職員の資質・能力の向上を図る。

## 3 研究主題

学び合いの中で自己を高め、自己表現できる児童の育成  
—情報活用の場を設定し教育効果を可視化する活動を通して—

昨年度は、感染症対策のため、授業で十分に話し合い活動や交流活動をできない中ではあったが、電子黒板や思考ツールを活用しながら、様々な形態で学び合い活動を行っている様子が見られた。しかし、学び合いの様子をよく観察すると、内容を受け取る一方になっている児童がいたり、一部の児童に頼って全員参加できていなかったりする様子が見られた。学び合いの場面設定や、表現活動の工夫に課題があると言える。また、学びの高まりを実感できるような、可視化された表現物の作成が不十分であったり、各学年の成果の積み重ねが十分でなかったりしていた。

県学習状況調査の質問紙調査によると、家庭での予習復習が不十分だと感じている児童や、将来の夢や希望をもていない児童が多いことがわかった。また、メディアに接する時間が長くなっていることが問題点として挙げられた。

本年度はGIGA スクール構想のスタートにあたる年であり、1人1台のタブレットを有効活用しながらの授業改善が求められる。そこで、本年度のテーマを上記のように設定した。まず授業を確かな学びの場とするために、授業のポイントを6+2の観点(表1)で明確化する。そして、授業の中で学びの高まりを実感できるような表現物を積み重ねるための指導を工夫する。その中で情報活用能力をしっかりと身に付けられるようにする。また、本年度も引き続き家庭学習を意欲付け、自主学習を充実させるために、家庭への啓発活動や系統的な指導、全校生への呼びかけを、計画的に行っていく。

また、昨年度に引き続き教職員全員が研究主題を基にした研究の個人テーマを設定し、個人研修を各自でしていくことで時間的な短縮を図りながら、質の高い研修内容を目指していく。

## 4 研究内容

- (1) 確かな学びの場となる授業づくり
- (2) 教育効果を可視化できる表現物の工夫
- (3) 学び方としての情報活用能力を育てる
- (4) 家庭学習の意欲付け

## 5 研究方法

- (1) 確かな学びの場となる授業づくりのために  
○「授業で大切にしたい6+2の観点」による授業改善  
○全員参加で自己肯定感を高める
- (2) 教育効果を可視化できる表現物の工夫  
○タブレットを活用した表現方法の研修  
○学びツールの開発と活用 ○子どもの表現物における高まりの検証
- (3) 学び方としての情報活用能力を育てる  
○各教科における ICT 活用実践例の積み上げ・共有 ○プログラミング教育の系統的な指導
- (4) 家庭学習の意欲付けを図るために  
○家庭学習の手引きの作成 ○チャレンジノート発表会の実施と学びコーナーの掲示による啓発

表1

「授業で大切にしたい6+2の観点」

- ① めあてを黒板に書く
- ② 板書計画を立てて授業に臨む
- ③ 教卓を離れ、足しげく机間巡視を行う
- ④ ICTを活用した授業を行う
- ⑤ 児童が話し合う場を授業の中に設定する
- ⑥ 学習の振り返りの場をもつ

※授業で家庭学習が活かされるような工夫  
※時間を意識し、集中して学習する習慣付け

## 6 研究組織

